

ヨコハマ市民まち普請事業 第13回

まちづくりに取り組む市民
×
横浜市

地域課題の解決に役立つ施設整備の提案を市民の皆さんから募集し、公開コンテストで選考された提案に対し、整備助成金を交付します。
■ ☎045 (671) 2679 地域まちづくり課

「まちづくりコンテストをご存じですか？」

「住民同士が交流できるスペースをつくりたい」、「子どもが安心して遊べる水辺をつくりたい」、「まちの課題解決に取り組みたい」。そうした市民の思いに応えるハード整備の助成を横浜市が行っています。「ヨコハマ市民まち普請事業」を通じて地域の皆さんが自ら実現した「夢」を紹介していきます。

● ふるさとの風景がつなぐ人とまち

「地域に根ざす技術を活かしふるさと大道の風景をつくる」(金沢区)

横浜市立大道小学校では、20年にわたり侍従川での清掃活動や自然体験活動など、子どもたちの環境教育の活動を地域と一体となって行ってきました。しかし、活動当初に小学校の中につくったトンボ池は、隣接する擁壁改修工事の影響で、水の量が減ってしまいました。

そこで、みんなで新たに井戸を掘り、トンボ池や田畑の水量を確保しようとコンテストに応募し、見事助成対象に選ばれました。

整備では、この地域の井戸掘りの伝統技術「上総掘り」を採用し、2本の井戸を掘りました。1本目の井戸は水が出ず、2本目の井戸でやっとうまくなりましたが、十分な水(毎分7リットル)が確保できたのは、なんと48メートル掘り進んだところだったそうです。

井戸の水は、生徒が世話をしている田んぼやハス田、畑で利用され、そして奥のトンボ池へと送られます。そこでは、水車を回し、トンボやメダカ、生き物の棲みかをつくっています。ここには、活動する方々の「ふるさと大道の風景を残したい」という思いが見事に実現されています。



(左) 伝統技術と地域の人々の想いでかつての自然環境が蘇った「ふるさと大道村」(右)「希望の井戸」と名付けられた2本目の井戸。汲み上げられた水は、トンボ池へと送られ生き物の棲みかをつくっています

※次号は戸塚区の「地域のインテリジェンス「ぶらっと 谷矢部」づくり」を紹介します。

まち普請 検索

「横浜市政主催のまちづくり公開コンテスト」～ヨコハマ市民まち普請事業～

横浜市では、市民の皆さんから地域の課題解決に役立つ施設(ハード)整備の提案を募集し、2段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の施設整備の助成金を交付する「ヨコハマ市民まち普請事業」を行っています。平成31年度の提案募集を4月上旬から開始する予定です。相談は常時受付中。詳しくは横浜市都市整備局地域まちづくり課(☎045-671-2679)までお問い合わせください。



読んで
なっとく!

横浜の歴史 vol.56

文: 横浜開港資料館
調査研究員 斉藤 司

神奈川砂子①

—「煙管亭喜荘と『神奈川砂子』—

今回から文政7年(1824)に神奈川町の煙管商・煙管亭喜荘が編纂した「神奈川砂子」の内容を紹介してみたい。喜荘は、文政5年頃に神奈川町の旧家である内海甚左衛門家所蔵の「東海道名所図会」を閲覧し、それまで存在していなかった神奈川宿の地誌編纂を思い立った。ちなみに「東海道名所図会」は寛政9年(1797)に秋里籬島の編纂により刊行された東海道を対象とする地誌で、説明文だけでなく対象の挿絵が所収されている。こうした記述形式による著作は「名所図会」と総称される。「神奈川砂子」も「名所図会」形式であるが、昭和5年(1930)に石野瑛氏により『武相叢書第二編 金川砂子 附神奈川史要』として刊行されるまで、写本として伝来するのみであった。

さて、「神奈川砂子」の末尾には「乍憚口上を以奉申上候」という文章が所収されている(図版参照)。ここでは「皆々様益々御機嫌克御座遊ばされ恐悦奉り候」とあいさつをした後、「私義」(＝喜荘)は「御当所」(＝神奈川宿)において「きせる商売」をしていると述べる。そして、御最良によって日増しに繁昌していることはありがたいことであり、なおまた煙管一色をたくさん仕入れて大安売りをするので、多少に限らず「御用向」＝注文をいただけるようお願いしている。下部には正装してお辞儀のあ



図版

いさつをする喜荘の人物画が描かれている。面を下げているため顔は見えないが、頭髪は黒く、少なくとも老年ではないことが想像される。以上のようにこの「乍憚口上を以奉申上候」は煙管亭喜荘による煙管商売の広告文である。

喜荘が商品として扱っている煙管は、喫煙具として日常品・日用品であると同時に嗜好品・贅沢品でもある。日常品については店舗売りが中心であったと思われるが、嗜好品・贅沢品については得意先への訪問販売によったと考えられる。こうして、前述したような神奈川宿と周辺地域における有力者や商人、あるいは旅籠や茶屋への販路を持ち、それを媒介にして「神奈川砂子」の取材やデータの提供を受けたのであろう。

大抽選会もあり!「金澤の木遣と祭囃子」

伝統の木遣・囃子・獅子舞などを後世に伝えるため、金沢区内10地区の保存会が、新しくなった公会堂で4年ぶりに日頃の成果を発表する。

◆2月23日(土) 10時30分～17時(予定) ◆新金沢公会堂 講堂 ◆入場無料



ぶらり Bar 飯探訪



楽しむ方は人それぞれ。お酒はもちろん、バーには美味しい食事がある

「WINE & SAKE BAR KUSA(草)」

京急「日ノ出町」駅から徒歩5分、野毛のはずれにあるBAR「KUSA(草)」。アンティーク家具やひとつひとつ表情の違うランプシェード、出窓にある黒電話。昭和モダンの中に、どこかキリッとした空気感が漂う印象的な店内だ。

常連客が「人に教えたくない」という人気の秘密は、オーナー・影島経介さんが作る美味しい食事だ。「野毛ははしご酒の盛んな街ですが、うちは腰を据えてゆっくり食事もお酒も楽しんでもらいたい店なんです」と影島さん。そのこだわりは旬の素材を使用するのは言うに及ばず、春には長野まで山菜を採りに行く徹底ぶり。採取困難と言われる山菜の女王「コシアブラ」の天ぷら、なんていうのにもお目にかかれる。

オーナーが美味しいと太鼓判



グラスワイン600円(税別)～、ボトル3,000円(税別)～



上質な椅子の席間隔も十分。寛ぎやすく、長居も楽しい

を押すワインはもちろんのこと、日本酒、ウィスキー、焼酎も揃う。ジャンルにこだわらない絶品料理とそれに合う酒。旨さをじっくり味わいながら楽しみたい。



時折登場する、人気のじっくり煮込んだミートソースパスタ。1,300円(税別)



黒毛和牛のタタキは、自家製のガーリックポン酢で。1,480円(税別)



◆中区宮川町2-28 前田ビル2 1F
◆17時～26時(祝日17時～24時) 日曜休
◆☎045 (334) 7977

横浜老舗名鑑

vol.25



創業100年を超える帽子店

HAT SHOP ニシカワ



① 昭和10年、伊勢佐木町6丁目の店舗



② 初代の松太郎さん夫婦



③ 英国マリリウス社の生地を使用したオリジナル帽子12,960円



④ ジョニー・デップの帽子を手にする西川英治さん。米国ステットソン製42,120円



⑤ 受け継がれている「金型」は、帽子の型入れやアイロンの道具

横浜に大正8年から店を構える帽子専門店がある。ニシカワの創業は明治43年。シルクハット等の帽子職人であった西川松太郎さんが創業、2年後に浅草稻荷町で帽子店を開業すると、流行に敏感な港町へ移ろうと横浜に店を移したのだという。

「伊勢佐木町の店は関東大震災や空襲で焼失。戦後は伊勢佐木町商店街にバラック小屋を建て営業を再開。その後、店舗を再建すると、伊勢佐木町では「帽子をかぶりましょう!」というHAT WEEKというものがつくり、多くの人が帽子をかぶっていたそうです」と紆余曲折の歴史を語るのは4代目

の西川英治さん。「これはジョニー・デップが来日した時かぶっていたのと同じ帽子です。生地は野うさぎの毛を8羽分くらいフェルト状にしたもので毛の油が水をはじくので雨に濡れても型崩れしません」と西川さん。なるほどその生地の柔らかいこと!!帽子一つでコーディネートが完成する。渥美清さんもニシカワの帽子を愛用していたそう。久しぶりに帽子をかぶって背筋をシャンと伸ばしてみたい。そんな店に出会った。

◆横浜市港南区港南台3-1-3 港南台パース2F
◆10時～21時 不定休 ◆☎045 (835) 0571

ヨコよみ みんなのおたより

- ✉ 小手伸也さん、最近TVで活躍していますが、旭区に縁があるんですね。私も昔は瀬谷に住んでいましたが、当時は相鉄線なんて田舎のイメージでした。ここ数年の変わりようにびっくりしています。まさか都心に延びるなんて思ってもいませんでしたから。 緑区 Y.W(55歳)
- ✉ 「どこか行こう」と誘っても「どこに?」と言われて、結局家にいる羽目に。そんな時はこの『ヨコよみ』を参考にすればよいですね。 戸塚区 F.S(69歳)

✉ “サンマー麵”は幼い頃、上大岡商店街で母と食べた思い出の味です。今も時々食いますが、なぜかあの頃の味と出合うことがありません。母と食べた味だからでしょうか…。 瀬谷区 Y.A(62歳)

アンケート結果発表! 「わが家のお気に入りの鍋料理」

第1位は「キムチ鍋」。圧倒的な人気でした。餃子を入れると美味しいという声も。2位は「すき焼き」。牛鍋発祥の横浜ならではの結果でしょうか? 3位は「寄せ鍋」でした。寒い日が続きます。いろんな鍋を楽しんでください。

次回のお題は「春の気配を感じるとき」。教えてください。

※ヨコハマよみうり編集部では、皆さまからいただいたおたよりすべてに目を通し、紙面づくりに生かしております
※ベッドでも、風景でも…おもしろ写真大募集! info@shonan-yomiuri.co.jpまで ※掲載された方に粗品をプレゼント!